

資料名「心を磨く」
テーマ（体験と関連させた資料の工夫）

学校名（ 府中町立府中中学校 ）

- 1 学 年 第2学年
- 2 主題名 自己の向上 1－（5）
- 3 ねらい 一生懸命トイレ掃除をするようになった僕の気持ちを考えることを通して、充実した人間としての生き方についての自覚を深め、よりよく生きようとする態度を育てる。
- 4 資料名 「心を磨く」（自作資料）
- 5 学習指導過程

	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	留意点（☆評価の観点）
導 入	1 掃除について、考える。	○ なぜ私たちは学校で掃除をするのだろう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校で決められているから。 ・ きれいにすると気持ちがいいから。 ・ きれいな教室で勉強したいから。 	○ 日常場面を想起させることで、資料につなげる。
展 開	2 資料を読んで話し合う。	○ 掃除に学ぶ会に参加することになったことを知った時、僕はどう思っただろう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ トイレ掃除なんかしたくない。 ・ 先生は勝手だ。 ・ 部活をした方がいいのに。 ○ 汚れた便器の前にかがみ、目の前にした時、僕はどう思っただろう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ くさい。 ・ トイレ掃除なんかいやだ。 ・ なんてやらないといけないのか。 ◎ 「ありがとうございました。」と大きな声で答えたのは、どんな気持ちからなのだろう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ リーダーにほめられたのでうれしかった。 ・ だんだん便器がきれいになるのを見て、充実感でいっぱいになった。 ・ 自分の心が磨かれてすがすがしくなった。 ・ 嫌なことを克服することができて、達成感を感じた。 	○ 僕の立場に立って考えさせることで、僕の納得いかない気持ちに共感させる。 ○ 普段の掃除の場面を想起させることで、掃除をしたくない僕の気持ちに共感させる。 ○ 補助発問をすることで、より深く価値について考えさせる。（「心を磨くとはどういうことだろう。」「掃除に学ぶ会に参加した後、なぜ僕は誰よりも部活の準備を進んで行うようになったのだろう。」）

終 末	3 自分の考えをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今日の学習を通して、思ったことや考えたことを書きましょう。 ・ トイレ掃除を通して変わった主人公はすごいなあと思った。 ・ トイレ掃除を通して、自分の弱い部分を見つめ、克服することができたので、主人公は変わることができたと思う。 ・ 私も主人公のように、嫌なことにも向き合い、何事にもすすんで取り組めるようになりたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分がどう考えたかをワークシートに書くことで、自分の考えを整理し、今後の道徳的实践に活かせるようにする。 ☆ 今までの自分を見つめ、これからよりよく生きようとする記述や発言がある。(ワークシート, 発言)
	4 「私たちの道徳」 P. 38 を読む。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「私たちの道徳」 38 ページを読みましょう。 ・ 嫌なことから逃げないようにしよう。 ・ 自分を成長させるためには、努力をすることが大切なんだなあ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今までの自分を見つめ、これからよりよく生きようとする気持ちが深まるよう、余韻をもって終わる。



活用に向けたポイント

1 推進地域や児童生徒の実態

本中学校区は中学校 1 校、小学校 3 校で約 2,000 人の児童生徒を擁する人口密集地帯の都市型の校区である。これまで「自尊感情」の育成が課題であると考え、小・中学校が一体となって児童生徒の体験活動などの指導に取り組んできた。その結果、「自分にはよいところがある」の肯定的評価は小学校 83.0%, 中学校 74.3% となり、改善傾向が見られた。しかし、学年別に見ると、特に中学校 2 年生の肯定的評価が低かった。自分のよさを自覚できず、自分に自信をもつことができていないためと思われる。

2 教材開発及び指導過程の工夫

府中中学校では豊かな体験活動の一環として、「広島掃除に学ぶ会」によるトイレ掃除を年 3 回実施している。毎回 100 名を超える生徒や保護者の参加があり、中には毎回参加している生徒もいる。参加者の掃除終了後の感想文には、「初めはいやだったけど、きれいになった便器を見るとやってよかったと思った。」のような肯定的な感想がほとんどである。

本教材は「広島掃除に学ぶ会」にしぶしぶ参加した生徒がトイレを掃除することを通して、奉仕することの尊さを知り、夢中で便器をきれいに磨くようになる姿を描いたものである。生徒にとっては大変身近な教材であり、主人公の心情に寄り添って考えることが容易であると考えられる。

3 発問の工夫

主人公の立場に立って、気持ちを考えさせる。特に中心発問においては、「ありがとうございました。」と大きな声で答えた時の主人公の気持ちを考えさせる。その際、「心を磨くってどういうことなのだろう。」「掃除に学ぶ会に参加した後、

なぜ僕は誰よりも部活の準備を進んで行うようになったのだろう。」と問い返すことで、ねらいとする道徳的価値に迫らせる。

4 生徒の反応

掃除に学ぶ会に参加したことのある生徒が各学級に 3 分の 2 以上いた。ワークシートの記述内容を見ても、主人公である僕に共感する生徒は多くいた。

中心発問では、「自分がそうじした便器がきれいになったから。」「自分の心も磨かれたから。」「リーダーにほめられたから。」と答える生徒が多かったので、準備していた補助発問でより深くねらいとする道徳的価値について考えさせることができた。

授業後に感想文を読むと、「次回の掃除に学ぶ会に参加して、トイレ掃除をしながら自分自身のことも見つめていきたいと思いました。」「人のことを考えて行動できる人になりたい。」「心の汚れ（めんどくさい、だるいなど）を落として、何事にも前向きに取り組みたい。」等の記述が多いことから、ねらいに迫らせることができたと考える。

5 活用に当たってのポイント

導入において、毎日行っている掃除を話題にすることで、資料にスムーズに入ることができる。

展開において、掃除に学ぶ会に参加したことがなくても、主人公の気持ちに寄り添うことは難しくないと考える。よって、最初の二つの発問に対しては生徒がどんどん発表するので、あまり時間をかけないようにする。中心発問でしっかり時間を確保し、補助発問をすることで、生徒により深く考えさせ、ねらいに迫らせたい。

「心を磨く」

「八月三十一日の日曜日に掃除に学ぶ会を開催します。参加を希望する人は申込み用紙を担当まで提出すること。」

担任の先生はこう言うと、申し込みのプリントを配った。

「これって、トイレそうじだろ。あの、素手で便器を磨くっていう・・・。絶対いやだ。それにどうせ部活もあるだろうし。」

僕は今まで掃除に学ぶ会に参加したことはない。もちろん参加するつもりもない。

僕は中学二年生。バスケットボール部に所属している。毎日練習には参加している。シュート練習や試合形式の練習は好きだが、練習の準備や片づけは苦手だ。だからいつも準備が終わったくらいに時間に体育館に顔を出し、練習が終わったら何かと理由をつけては早く体育館を出る。

一学期も終わり、夏休みが始まった。僕たちは夏の地区大会での優勝を目指し練習に励んだ。しかし、地区大会では決勝戦で負けてしまい、三年生は引退した。翌日、新チームになって初めてのミーティングが開かれた。そこで顧問の先生はつぎのように話した。

「今日から新チームだ。二年生を中心にがんばっていきこう。基礎的な練習から始めるぞ。あと、八月三十一日の掃除に学ぶ会に全員参加することにしたぞ。」

「ええっ？」

部員たちはみんなびっくりした。「だれも申込みをしていませんが・・・」と部員のだれかが言った。「大丈夫だ。部員名簿を先生が提出したから、申込みはできているぞ。」と先生は答えた。

(トイレ掃除に何の意味があるんだ。部活をしている方がまだ。)

ついにトイレ掃除の日がやってきた。僕は重い足取りで学校に向かった。学校に着くと、もうスタッフの人が準備をしていた。

「おはよう！」

とスタッフの一人が声をかけてきた。僕が小さな声で、

「お、おはようございます。」

と応えると、

「元気がないなあ。しっかりせえよ。」

とスタッフは言った。「はあ。」と僕は元気なく返事をした。

他のバスケットボール部員と合流し、集合場所の体育館に入った。すでにたくさんの生徒や保護者が集まっていて、生徒だけで百人くらいはいた。

(こんなにたくさんの生徒が参加しているんだ。)

僕は正直驚いた。開会式が始まった。校長先生のあいさつや掃除に学ぶ会の人のあいさつ、掃除の仕方の説明などがあったが、あまり耳に入らなかった。



開会式の後、グループに分かれ、ついにトイレ掃除が始まった。リーダーの説明の後、分担が決められた。僕は男性用小便器担当となった。汚れた便器の前にかがみ、目の前にすると気が滅入った。とても臭くて、汚かった。

(掃除当番のやつら、毎日ちゃんと掃除しろよ。)
そんなことを思った僕もこれまでトイレ掃除をまじめにしたことはなかった。トイレはできれば避けたかった掃除場所だ。僕はしばらくじっとして動けなかった。便器を素手で触ることに抵抗があった。しかし、周りの生徒は掃除を始めている。ついに僕は覚悟を決め、便器を磨き始めた。

(ああ、いやだなあ。こんな手でご飯とか食べられないし。)
便器を磨き始めてしばらくするとリーダーが近づいてきた。「ふちの裏の部分にまだ汚れが残っているぞ。」と汚れが残っているのを指摘された。
(まだやるのかよ。)

不満に思いながらもふちの裏を磨いた。汚れの塊がおもしろいように落ちる。僕はいつの間にか床にひざまづき、便器を磨くことに夢中になっていた。黄ばんだ便器がだんだんと白くなるのがわかった。再びリーダーがやって来た。

「便器がともきれいになったね。君はトイレ掃除が上手だなあ。」
少し離れて便器を見ると、確かに磨いている部分とそうでない部分の差がはっきりわかるくらい、磨いた部分はきれいになっている。僕は汚れた部分を徹底的に磨いた。しばらくして、掃除が終了した。小便器は白く輝いていた。

「よくがんばったね。ごくろうさま。」
とリーダーが声をかけてくれた。僕は思わず、「ありがとうございます。」

と大きな声で答えた。僕は自分が使った道具の片付けをした後、残っている道具も率先して片付けた。掃除が終わると再び体育館に集まり、グループ内で感想を発表した。全員の発表の後にリーダーが言った。

「君たちはトイレ掃除を始める前と終わった後で大きく変わりました。君たちは便器と向き合い、便器を磨きながら自分たちの心も磨くことができたのではないかと思います。今日はありがとうございます。」

リーダーの話聞いて、
(「心を磨く」ってどういうことかな。)
と考えた。

次の日から部活が再開された。体育館には誰よりも準備を進んでいる僕がいた。



(登場人物とは関係ありません。)

「心を磨く」	名前	組 番
--------	----	-----

1 _____

2 _____



3 今日の学習を通して、考えたことや思ったことを書きましょう。

○今日の授業を振り返って

①意見や考えを持てた (4・3・2・1)	④自分の思いや考えをしっかりと書けた (4・3・2・1)
②人に意見を伝えられた (4・3・2・1)	⑤今日の授業は役に立つ (4・3・2・1)
③人の意見を聞いて考えが深まった (4・3・2・1)	

4：とても 3：まあまあ 2：あまり 1：まったく